

述ブルガ如シ。宜シク參考スベシ。

仁徳天皇ヨリ文武天皇マデノ間ハ毎年春分ノ獻水ハ關難ノ氷室ヨリセシガ、元明天皇和銅三年都ヲ奈良ニ遷スニ及ビ、又之ヲ春日ノ三笠山ノ麓、吉城川上即チ水ノ崖ニ作り、以テ朝廷ニ獻ゼシム。之ヲ吉城川氷室一ニ春日氷室、水谷氷室トモ稱セリ。乃チ神殿ヲ此所ニ作り、以テ其ノ靈ヲ祭ル。是、實ニ當社ノ創始ナリ。古、高橋氷室神社ノ稱號アリ。延喜式神名帳ニ所謂高橋神社ハ蓋シ當社ナルベシ。元要記曰

四十三代元明天皇御宇平城郡春日氷室或書云吉城川氷室、奈良京始也五十代桓武天皇御宇山城國平安城郡葛野郡宇多氷室、其後國々處々勸請也

坊目考曰

元要記云、和銅三年七月二十二日添上郡三笠山下津岩根宮鎮座也貞觀二年二月朝日御影向依相三所宮柱鎮座建保五年十一月朝日三所宮柱造營遷宮

神主家春日舞人狛近眞蒙附屬下知畢云云

永久五年九月朝日恆例神祭始與別當終南院家惠曉之時云云

神主家記曰、氷室神社昔在子吉城川上、也高橋神社神階正是也建保五年十一月朝日遷宮於當氷室

敷地左近府生大神遺弘爲祭主云云

寛文名所記廣大和名曰氷室社は南向なり北向荒神より西に在此祠はいにしへは水谷の西にありけるを興福寺の院家修南院僧正寺務の時春日の樂人より惣伶人守護の神と崇め奉らんと訴訟す元より春日の末社ならねはとて此所へ移し奉る

建保五年十一月朝日今ノ社地ニ遷祀セシハ右ニ引ケル記録等ニテ明ナルモ、其ノ吉城川上氷室水谷氷室トモ云フノ址何レニアルベキヤ、其ノ址ノ在ル所即チ舊社地ナリ。天平勝寶八年勅定ノ東大寺古圖ヲ案ズルニ、三笠山神地ノ北、水谷川吉城川ノ上流ノ邊ニ一池ヲ圖シコレニ氷池ノ二字ヲ記入セリ。又氷

室社記廣大和名

神志所引ニ

元明帝遷都于平城時新造構氷室於春日山之北山足。水屋氷室則是也衣笠内府家良公五條三位俊成卿氷室之哥爲證也其先祭氷室明神于此地爲護神故號吉城川氷室。或云高橋氷室神社而建保五年遷坐於登大路。今社地自是水屋氷室廢亡

又曰元明天皇御宇氷室殿舊遷造於三笠山麓吉城川上南之崖。而每歲六月朔日獻氷于平城朝廷。今謂之日月磐。即此也云云造營神殿於此地齋祀守護神號氷室神社

トアリ。所謂日月磐ハ名所圖會ニ日月磐氷室舊地平城社跡考曰水谷川上六町餘東山の間にあリ……磐面に日月星の三光の形を彫付る俗に其地を呼んで日月といふ云ヘル所ニシテ實ニ水谷川上ニアリ。故ニ當時之ヲ水谷氷室トモ吉城川上氷室トモ稱セリ。而シテ社殿ノ位置ハ均シク一社ノ記録ニシテ一ハ水屋ニ祭ルト云ヒ、一ハ川上ノ南崖日月磐ノ地ニ造營ス